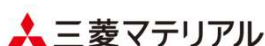


2027年3月期第1四半期決算補足説明資料

2026年8月6日



CEOの田中でございます。本日は、当社の2027年3月期第1四半期決算説明会にご参加いただき、誠にありがとうございます。

第1四半期は、タングステンや銅をはじめとする金属価格の上昇、為替の円安、自動車・半導体関連需要の改善を背景に、前年同期比で大幅な増収増益となり、第1四半期として過去最高益を達成しました。

もっとも、今回の利益拡大には、金属価格や為替などの外部環境が大きく寄与しており、この利益水準をそのまま当社の基礎的な収益力と捉えているわけではありません。

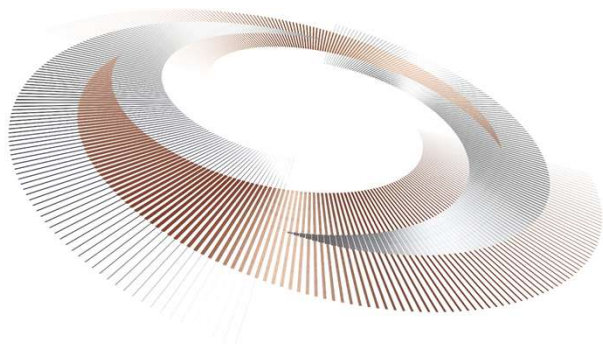
一方で、今回の環境変化は、当社の資源循環戦略の強みを改めて示す機会ともなりました。具体的には、タングステン事業において原料調達が不安定化する中でも、原料の確保、収益性の向上、地政学リスクを踏まえたお客様のサプライチェーン再構築ニーズへの対応という面で成果を上げています。

当社のグローバルな資源循環モデルが、競争優位性の源泉として機能していることを確認できたと考えています。

その意味で、私は今四半期を、「市況の追い風を受けた好業績」であると同時に、「当社の資源循環戦略の強みが、具体的な競争力として表れた四半期」であったと評価しています。

この好機を一時的なものに終わらせず、成長投資と事業構造改革を着実に進め、外部環境の変化に左右されにくい収益基盤の構築と、企業価値の向上につなげてまいります。

それでは、決算補足説明資料4ページをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

目次

1. エグゼクティブサマリ	P.4
2. 2027年3月期第1四半期実績	P.6
3. 2027年3月期通期予想	P.10
4. 参考情報	P.14

事業環境 ・ 予想前提

- ・ **自動車関連は、東南アジアを中心に堅調、日本でも改善傾向がみられ、当社の伸銅品・超硬製品の需要環境は回復基調で推移**
- ・ **半導体関連は、AI関連需要を中心に堅調、当社の伸銅品・高機能製品の需要環境は改善傾向で推移**
- ・ **為替は円安、金属価格は高値圏で推移。通期予想における米ドルの想定レートおよび銅・タングステン価格の前提を見直し**
- ・ **銅精鉱の購入・電気銅等の販売に係る事業統合時期を競争法上の審査完了時期の見通しを踏まえ2月1日に変更^{*1}。財務影響は織り込み済**

^{*1} 2026年8月6日 （開示事項の変更）会社分割（簡易吸収分割）による銅精鉱の購入および電気銅等の販売に係る事業の統合に関する最終契約書の締結について

公表類

資源循環ビジネスの収益貢献本格化に向けて取り組みを加速

- ・ 伸銅品事業における製品ポートフォリオの最適化を実施^{*2}
- ・ H.C.Starck（タングステン）リサイクル能力増強投資を決定^{*3}
- ・ 転換抑制型CBを活用し、調達コストを抑制しつつ、成長投資資金を確保^{*4}

^{*2} 2026年6月12日 伸銅品事業における棒製品およびエコプラス鍛造品の製造・販売終了について
2026年7月14日 1GPa級の超高強度と高導電率を両立した新銅合金「MSP®5-SSH」を開発

^{*3} 2026年7月31日 H.C. Starck Tungsten GmbH におけるタングステンリサイクル能力増強投資について

^{*4} 2026年7月8日 2030年満期ユーロ円建取得条項付転換社債型新株予約権付社債及び2032年満期ユーロ円建取得条項付転換社債型新株予約権付社債の発行について

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

4

まず、事業環境および通期の業績予想前提についてご説明いたします。

自動車関連では、東南アジアを中心に需要が堅調に推移し、日本市場にも改善の動きが見られました。また、半導体関連ではAI向け需要を中心に回復が続いています。

これらを背景に、当社の伸銅品・超硬製品・高機能製品の需要環境も改善傾向で推移しました。

また、為替は円安、金属価格は高値圏での推移が継続していることを踏まえ、通期予想では、米ドル、銅、タングステン価格の前提条件を見直しております。

銅精鉱の購入・電気銅等の販売に係る事業統合については、競争法上の手続の進捗と所要期間の見通しを踏まえ、統合時期を2月1日に変更しましたが、財務影響は限定的と見ています。

こうした外部環境への対応と並行して、中期経営戦略の中核である資源循環ビジネスの成長に向けた取り組みも着実に進めています。

足元の7月には、欧州でのタングステンリサイクル能力の増強投資を決定するとともに、転換抑制型CBによる資金調達を実施し、成長投資を着実に実行するための資金基盤を整えました。さらに、伸銅品事業では、製品ポートフォリオの見直しを進めています。

足元の好業績に加え、将来の競争力と収益基盤の強化に向けた取り組みを着実に前進させていることも、今回お伝えしたい重要なポイントです。

続いて、5ページをご覧ください。

2027年 3月期 第1四半期 実績

タングステン・銅・金等の金属価格の上昇、為替の円安、自動車・半導体関連の需要改善を背景に増収増益。第1四半期として過去最高益

売上高 : 5,970億円 (前年比+1,656億円)
営業利益 : 329億円 (前年比+356億円、在庫評価影響除く実力差+273億円)
経常利益 : 519億円 (前年比+520億円、在庫評価影響除く実力差+431億円)
当期純利益 : 512億円 (前年比+553億円)

2027年 3月期 通期 予想

第1四半期までの増益に加え、米ドル、タングステン・銅の前提条件見直しにより上方修正。過去最高益を見込む
配当予想は、キャッシュフローおよび株主還元方針*を踏まえ据え置き

売上高 : 24,000億円 (前回予想比+4,100億円)
営業利益 : 1,300億円 (前回予想比+940億円、在庫評価影響除く実力差+823億円)
経常利益 : 1,800億円 (前回予想比+1,070億円、在庫評価影響除く実力差+916億円)
当期純利益 : 1,400億円 (前回予想比+910億円)

配当予想 : 年間116円/株 (前回予想比±0円/株)

*DOE (年間配当総額/前期末の株主資本) 2.5%を目途

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

5

第1四半期は、売上高5,970億円、営業利益329億円、経常利益519億円、親会社株主に帰属する四半期純利益512億円となり、第1四半期として過去最高益を達成しました。

この結果を踏まえ、通期予想については、第1四半期実績に加え、米ドル、銅、タングステン価格の前提条件の見直しを反映し、売上高2兆4,000億円、営業利益1,300億円、経常利益1,800億円、親会社株主に帰属する当期純利益1,400億円に上方修正しました。

営業利益・経常利益ともに過去最高益を見込んでおり、在庫評価影響を除いたベースでも前回予想を大きく上回る見通しです。

ただし、今回の上方修正には金属価格の上昇や円安に加え、市況上昇前の低価格在庫の払い出し効果なども含まれており、今後の市況変動には引き続き注意が必要であると考えています。

また、金属価格の上昇は利益を押し上げる一方で、原料調達に必要な運転資本を増加させるため、利益の増加がそのままフリー・キャッシュ・フローの増加につながるわけではありません。

これらを踏まえ、配当予想については、DOE2.5%を目途とする株主還元方針に基づき、1株当たり年間116円を据え置いています。

今後も、中長期的な企業価値向上を軸に、成長投資、財務規律、株主還元のバランスを重視してまいります。

それでは、ここからの業績詳細については、CFOの平野よりご説明いたします。

2027年3月期第1四半期実績 連結業績概況

タングステン・銅・金等の金属価格の上昇に加え、為替の円安、自動車・半導体関連の需要改善を背景に増収増益。

特別損益は、退職給付制度改定益（110億円）を計上

（単位：億円）	26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績	増減			26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績	増減
売上高	4,314	5,970	+1,656	ドル為替	(円/\$)	145	159	+15
営業利益 (在庫評価影響除く)	△26 (24)	329 (297)	+356 (+273)	ユーロ為替	(円/€)	164	185	+22
受取配当金	24	125	+101	銅価格	(¢/lb)	432	604	+173
持分法損益	42	68	+26	金価格	(\$/oz)	3,280	4,516	+1,236
経常利益 (在庫評価影響除く)	△1 (54)	519 (485)	+520 (+431)	パラジウム 価格	(\$/oz)	990	1,414	+423
特別損益	△13	116	+129	APT*価格 (タングステン)	(\$/MTU)	410	3,069	+2,659
親会社株主に帰属 する当期純利益	△40	512	+553					

*APT（パラタングステン酸アンモニウム）：タングステン中間生成物

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

6

平野でございます。

私からは、CEOの田中からの総括を踏まえ、第1四半期の利益の質、通期予想の上方修正を支える前提とその持続性、そして利益からキャッシュへの転換という3つの観点からご説明いたします。

6ページをご覧ください。第1四半期の連結業績概況です。

冒頭の説明との重複を避けるため、個別の数値の読み上げは省略しますが、第1四半期の各段階利益はスライド記載のとおりです。

営業利益は前年同期比356億円の増益となりましたが、このうち在庫評価影響を除いた増益額は273億円です。主な増益要因は、タングステン製品の販売価格上昇、超硬製品・高機能製品における需要改善と増販、ならびに価格適正化の効果です。

経常利益は前年同期比で520億円の増益となり、在庫評価影響を除いたベースでも431億円の増益です。営業利益の増加に加え、銅価上昇と円安を背景に、出資先銅鉱山からの受取配当金および持分法利益が増加しました。

また、当第1四半期において、退職給付制度改定益110億円を特別利益として計上しておりますが、5月公表の業績予想には織り込み済みです。

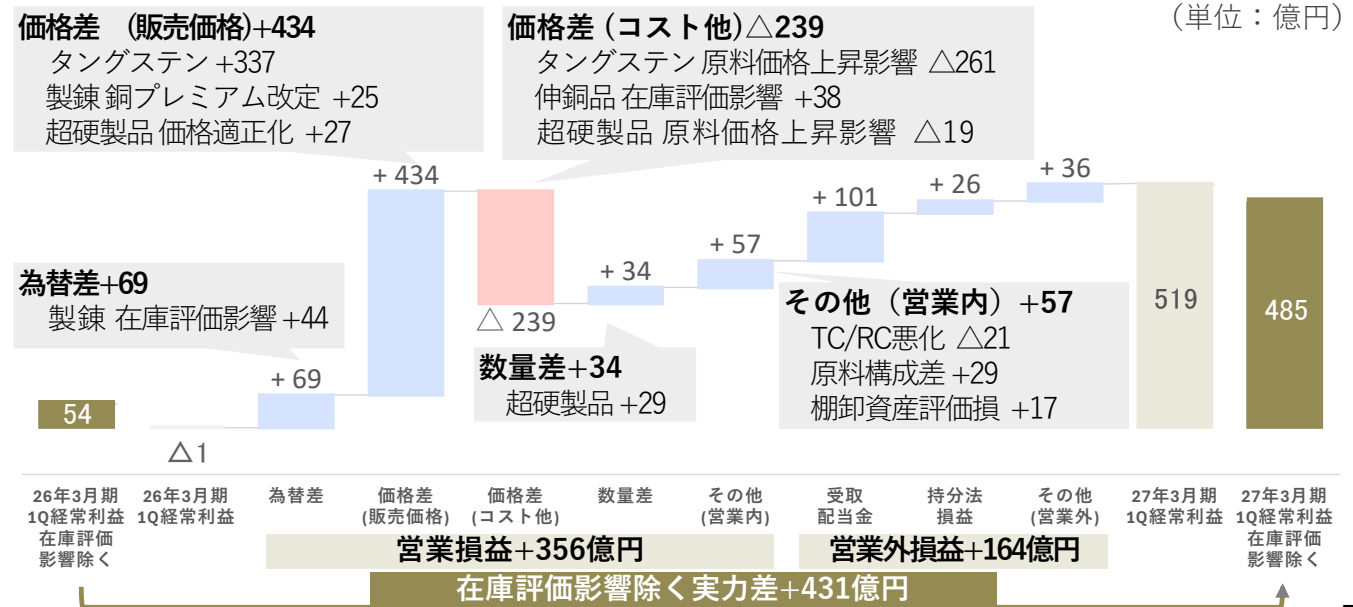
右側の前提条件をご覧ください。前年同期に比べ、ドル円の為替は円安となり、銅、金、パラジウム、タングステンの中間生成物であるAPTの各価格が上昇しました。特に、2月以降のAPT価格の上昇が大きく、今回の利益増加を理解する上で最も重要な外部要因の一つです。

続いて、7ページをご覧ください。

2027年3月期第1四半期実績 利益増減要因内訳

営業利益 : タングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果、製錬・伸銅品の原材料の在庫評価影響、超硬製品の堅調な事業環境に伴う増販を取り込み増益。また、TC/RC悪化は期初計画通り銅プレミアム改定で吸収

経常利益 : 営業利益の増益、銅価・円安に伴う投資先銅鉱山からの受取配当金、持分法損益の増加、外貨建て債権債務の為替差益により増益



7ページは、営業利益および経常利益の前年差について、増減要因を整理したものです。

まず、営業利益は前年同期比で356億円の増益となりました。

販売価格差434億円が大きく貢献しています。このうち、タングステン製品の販売価格上昇が337億円、製錬事業の銅プレミアム改定が25億円、超硬製品の価格適正化が27億円です。

一方、原料コスト等は239億円のマイナスであり、主にタングステン原材料価格の上昇によるものです。

したがって、今回のタングステン事業の増益は、単純な売価上昇だけではなく、販売価格の上昇幅と原料コストの上昇幅との差、ならびに価格高騰前に取得した低価格在庫の払い出し効果によって生じています。この点は、後ほど改めて触れますが、利益の持続性を判断するうえで重要です。

為替差は、前年同期比69億円の増益要因ですが、このうち44億円は、製錬・資源循環事業における原材料の在庫評価影響です。

数量差は34億円のプラスで、主に超硬製品の増販によるものです。ただし、第1四半期には価格改定前の前倒し需要も一部含まれているとみており、数量面については、第1四半期の水準がそのまま年間を通じて継続するとは想定していません。

営業外損益は164億円改善しました。銅価上昇と円安を背景に、出資先銅鉱山からの受取配当金が増加したこと、持分法損益の改善、外貨建債権債務に係る為替差益が主な要因です。

以上の結果、経常利益は519億円となり、在庫評価影響を除いたベースでも前年同期比431億円の増益となりました。

次の8ページで、これをセグメント別にご説明します。

2027年3月期第1四半期実績 利益増減要因内訳（セグメント別）

製錬・資源循環 価格差 : タングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果 +76^{*1}
製錬・資源循環 為替差 : 円安による原材料の在庫評価影響 +44
伸銅品 コスト他 : 銅価上昇による原材料の在庫評価影響 +38
超硬製品 数量差 : 堅調な事業環境取り込みに伴う増販 +29

(単位：億円)	26年 3月期 1Q 実績	27年 3月期 1Q 実績	増減	増減要因							
				営業損益					営業外損益		
				為替差	価格差 (販売価格)	価格差 (コスト他)	数量差	その他	受取 配当金	持分法 損益	その他
マテリアル領域	△66	260	+327	+53	+402	△216	△10	+69	+0	+9	+20
製錬・資源循環	△74	222	+296	+50	+396	△259	△16	+96	+0	+9	+18
伸銅品	△6	58	+65	+2	+6	+42	+5	+7	+0	－	+1
プロダクト領域	35	120	+84	+16	+31	△22	+45	+9	△0	+3	+0
超硬製品	31	85	+54	+15	+27	△19	+29	+1	△0	－	+0
高機能製品	4	34	+30	+1	+3	△2	+16	+7	△0	+3	+0
資源	19	140	+120	－	－	－	－	+0	+101	+6	+13
再生可能 エネルギー	1	10	+9	－	+0	+0	+3	+0	+0	+1	+3
その他 ^{*2}	8	△13	△21	+0	+0	+0	△3	△22	+0	+5	+0
合計（経常利益）	△1	519	+520	+69	+434	△239	+34	+57	+101	+26	+36

^{*1}販売価格・原料コスト差引効果（p.7 参照）
Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

^{*2}その他事業、連結調整額含む

8

8ページをご覧ください。

セグメント別では、マテリアル領域が前年同期比327億円の増益となりました。

このうち、製錬・資源循環は296億円の増益です。主な要因は、タングステンの販売価格と原料コストの差引効果76億円、および円安に伴う原材料の在庫評価影響です。

伸銅品は65億円の増益で、主として銅価上昇に伴う原材料の在庫評価影響が寄与しました。

また、プロダクト領域は84億円の増益です。このうち超硬製品が54億円の増益であり、需要環境の回復を受けた増販と、価格適正化の効果が表れています。

高機能製品については、半導体関連需要の改善を背景に30億円の増益となりました。

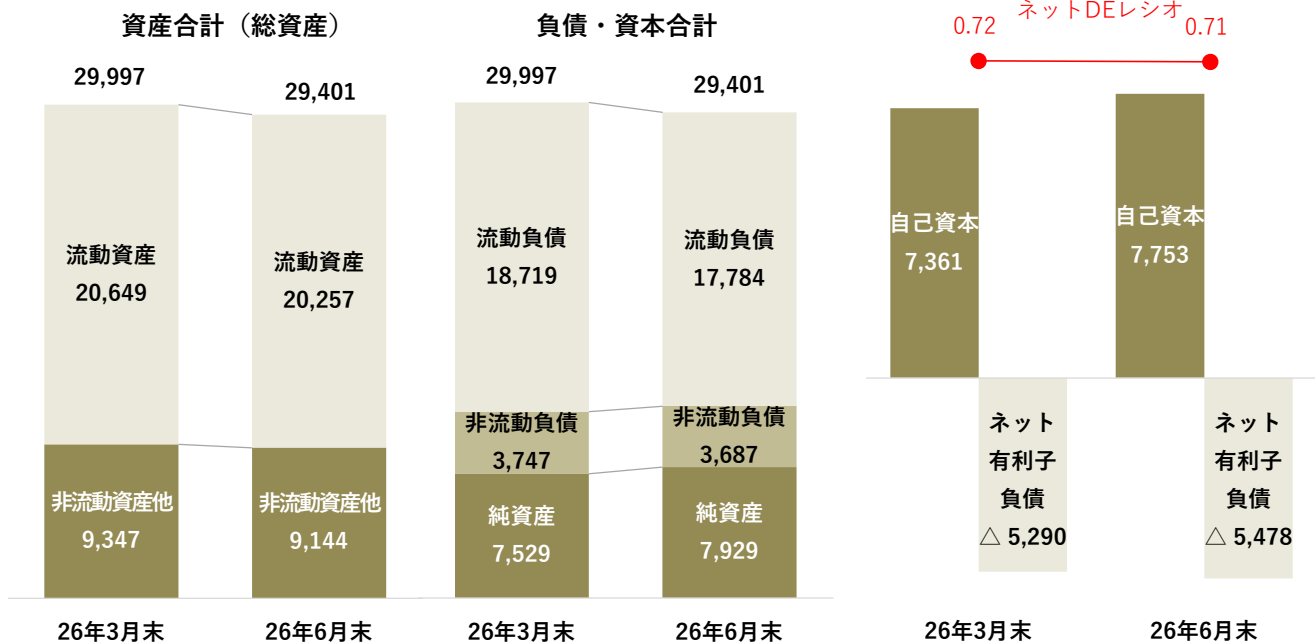
以上のとおり、第1四半期の利益拡大はマテリアル領域における市況要因の寄与が大きいものの、超硬製品および高機能製品において、数量・価格の両面で改善が確認されており、プロダクト領域においても収益回復に向けた前向きな動きが確認できていると評価しています。

続いて、9ページをご覧ください。

2027年3月期第1四半期実績 連結財政状態

総資産 : 金属価格下落による貸付金地金等の減少により減少
ネットDEレシオ : 財務規律を意識した運営を継続し、前期末同水準を維持
自己資本比率 : 26.4% (預り金地金を除く42.1%)

(単位: 億円)



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

9

9ページは、6月末の連結財政状態です。

総資産は2兆9,401億円となり、3月末から596億円減少しました。これは主として、金価格の下落に伴う貸付金地金等の減少です。

自己資本は、四半期純利益の計上などにより392億円増加し、7,753億円となりました。

一方で、ネット有利子負債は188億円増加し、5,478億円となりました。ただし、自己資本の増加もあり、ネットDEレシオは0.71倍と、前期末の0.72倍とほぼ同水準です。

また、自己資本比率は26.4%、預り金地金を除いたベースでは、42.1%であり、現時点では、財務規律を維持しながら、必要な資金需要に対応できる財務基盤を確保していると認識しています。次の10ページからは、通期予想についてご説明します。

2027年3月期通期予想 連結業績概況

第2四半期以降の米ドルおよび銅・タングステン価格の前提条件を見直す。
主にタングステン価格上昇の影響を反映し、通期業績予想を上方修正する

(単位：億円)		前回5/13 通期予想	今回8/6 通期予想	増減			前回5/13 通期予想	今回8/6 通期予想	増減
売上高		19,900	24,000	+4,100	ドル為替	(円/\$)	150	158	+8
営業利益 (在庫評価影響除く)		360 (442)	1,300 (1,265)	+940 (+823)	ユーロ為替	(円/€)	180	181	+1
受取配当金		304	373	+68	銅価格	(¢/lb)	500	579	+79
持分法損益		265	300	+35	金価格	(\$/oz)	4,000	4,129	+129
経常利益 (在庫評価影響除く)		730 (848)	1,800 (1,764)	+1,070 (+916)	パラジウム 価格	(\$/oz)	1,100	1,178	+78
特別損益		20	39	+19	APT価格 (タングステン)	(\$/MTU)	855	3,017	+2,162
親会社株主に帰属 する当期純利益		490	1,400	+910	感応度*2				2Q以降 影響額
ROIC*1	(%)	6.7	13.7	+7.0	ドル為替	営業利益±1円/\$			4.7
ROE	(%)	6.8	18.5	+11.7	ユーロ為替	営業利益±1円/€			1.2
					銅価格	(a)営業利益±10¢/lb			3.7
						(b)営業外損益±10¢/lb			12.7
						(a+b)経常利益±10¢/lb			16.4

*1 ((経常利益 + ネット支払利息 - 持分法投資損益) × (1 - 実効税率) + 持分法投資損益) ÷ 投下資本

*2 感応度に在庫評価影響は含まない

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

10

10ページをご覧ください。

今回、通期業績予想を上方修正し、売上高2兆4,000億円、営業利益1,300億円、経常利益1,800億円、親会社株主に帰属する当期純利益1,400億円を見込んでいます。

今回の見直しでは、第1四半期実績を反映するとともに、第2四半期以降の市況前提を更新しました。スライド右側上段には、第1四半期実績を含む年間平均を記載しています。第2四半期以降の前提については、銅価格を570¢/lb、APT価格を3,000ドル/MTUとしています。米ドルは、第2四半期を160円、第3四半期を158円、第4四半期を156円としています。

営業利益については、タングステン製品の販売価格上昇と、価格高騰前の低価格在庫払出し効果、ならびに銅の在庫評価影響を反映しています。

経常利益については、これらに加えて、銅価上昇と円安を背景とした受取配当金と持分法利益の増加を見込んでおります。

左下段に記載のとおり、ROICは13.7%、ROEは18.5%を予想しています。ただし、今回の改善には市況要因と一時的な在庫効果が相当程度含まれております。したがって、冒頭、CEOの田中から申し上げたとおり、この水準をそのまま中長期的な収益力、あるいは持続的な資本効率と捉えてはおりません。

引き続き、当社としては、市況要因を除いた収益力とキャッシュ創出力を高め、資本コストを上回るリターンを継続的に確保することが重要であると考えています。

続いて、11ページをご覧ください。

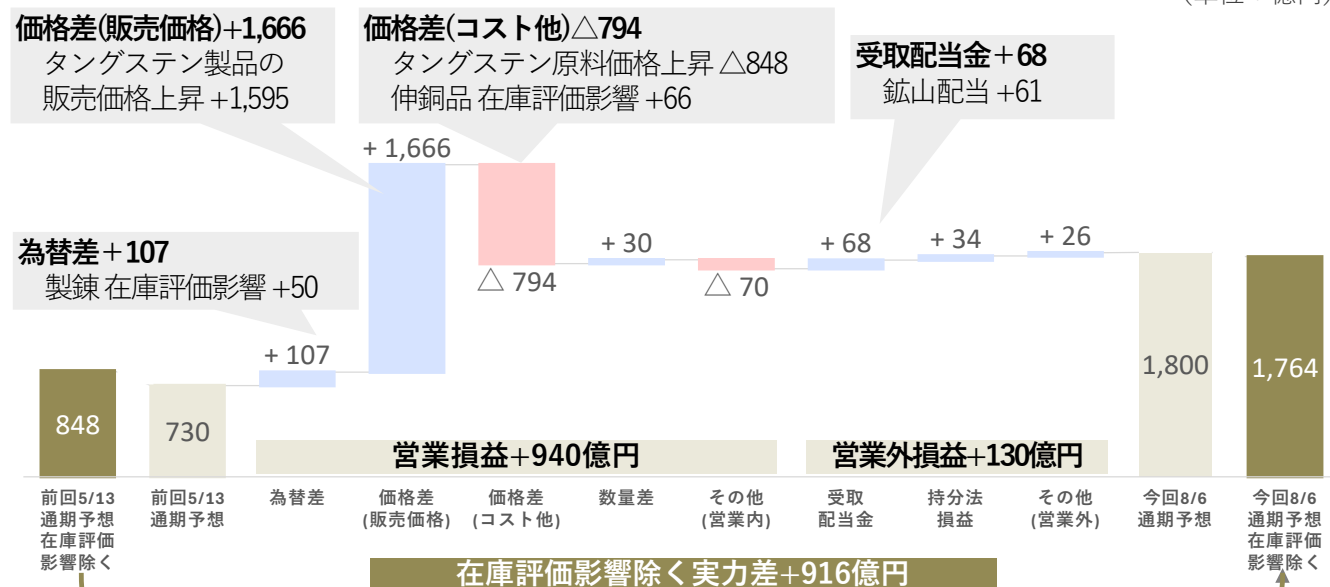
2027年3月期通期予想 利益増減要因内訳（前回5/13通期予想対比）

営業利益：第1四半期実績の反映、前提条件見直しによるタングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果、銅の在庫評価影響を織り込み増益を見込む

（タングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果は、第4四半期以降縮小を想定）

経常利益：営業利益の増加に加え、銅価上昇・円安による受取配当金および持分法利益の増加により増益の見通し

（単位：億円）



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

11

11ページは、前回予想からの経常利益の増加額1,070億円を要因別に示しています。

営業利益は前回予想比で940億円の増益を見込んでいます。

販売価格差は1,666億円のプラスで、このうちタングステン製品の販売価格上昇が1,595億円です。一方で、原料コスト等は、794億円のマイナスであり、このうちタングステン原料価格の上昇が848億円のマイナスです。

したがって、今回の大幅増益を評価する際には、市況要因による利益、一時的な在庫効果、そして数量増加や価格適正化など自らの施策による収益改善を区別して捉える必要があると考えています。

第1に、売価と原料価格の双方が大きく上昇しており、売上高や利益の絶対額だけでは収益構造を正確に把握できないことです。

第2に、価格上昇前に取得した低価格原料在庫の払い出し効果が含まれていることです。この効果は、第4四半期以降、縮小する見通しです。

第3に、価格が現在の水準で推移した場合でも、高価格で取得した原料が順次原価に反映されるため、今回の利益水準が来期以降もそのまま継続するものではないことです。

営業外損益は130億円の改善を見込み、主として、鉱山配当および持分法利益の増加によるものです。

以上により、経常利益は前回予想比1,070億円増益の1,800億円を見込んでいます。在庫評価影響を除いたベースでも前回予想を916億円上回る見通しです。

次の12ページで、セグメント別にご説明します。

2027年3月期通期予想 利益増減要因内訳（セグメント別）

製錬・資源循環 価格差：タングステン価格の上昇影響 +747*¹
伸銅品 コスト他：銅価前提見直しによる原材料の在庫評価影響+66
資源 受取配当金：銅価上昇・円安推移を踏まえた鉱山配当見通しの更新+61

(単位：億円)	前回 5/13 通期 予想	今回 8/6 通期 予想	増減	増減要因								
				営業損益					営業外損益			
				為替差	価格差 (販売価格)	価格差 (コスト他)	数量差	その他	受取 配当金	持分法 損益	その他	
マテリアル領域	215	1,150	+934	+90	+1,648	△780	△11	△10	+0	△4	+3	
製錬・資源循環	213	1,084	+870	+90	+1,643	△848	△10	+1	+0	△4	△0	
伸銅品	7	90	+83	+0	+4	+68	△1	+6	+0	－	+4	
プロダクト領域	182	266	+83	+16	+18	△13	+32	+21	+0	+4	+3	
超硬製品	129	185	+56	+11	+10	△8	+25	+15	+0	－	+1	
高機能製品	53	80	+27	+4	+7	△4	+6	+5	+0	+4	+2	
資源	337	458	+120	－	－	－	－	+0	+61	+47	+10	
再生可能 エネルギー	14	15	+1	－	+0	+0	+0	+0	+0	+0	+0	
その他* ²	△20	△90	△70	+0	+0	+0	+9	△81	+7	△13	+8	
合計（経常利益）	730	1,800	+1,070	+107	+1,666	△794	+30	△70	+68	+34	+26	

*¹販売価格・原料コスト差引効果（p.11 参照） *²その他事業、連結調整額含む
Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

12

12ページをご覧ください。

マテリアル領域は、前回予想比934億円の増益を見込んでいます。

このうち、製錬・資源循環は870億円の増益で、タングステン価格の上昇による販売価格と原料コストの差し引き効果747億円が中心です。

伸銅品は83億円の増益で、主に銅価前提の見直しに伴う原材料の在庫評価影響によるものです。プロダクト領域は83億円の増益を見込んでいます。超硬製品は56億円、高機能製品は27億円の増益であり、第1四半期実績における販売数量の増加や価格適正化の効果を反映しています。

資源事業は120億円の増益です。銅価上昇と円安を踏まえ、鉱山配当と持分法損益の見通しを更新しました。

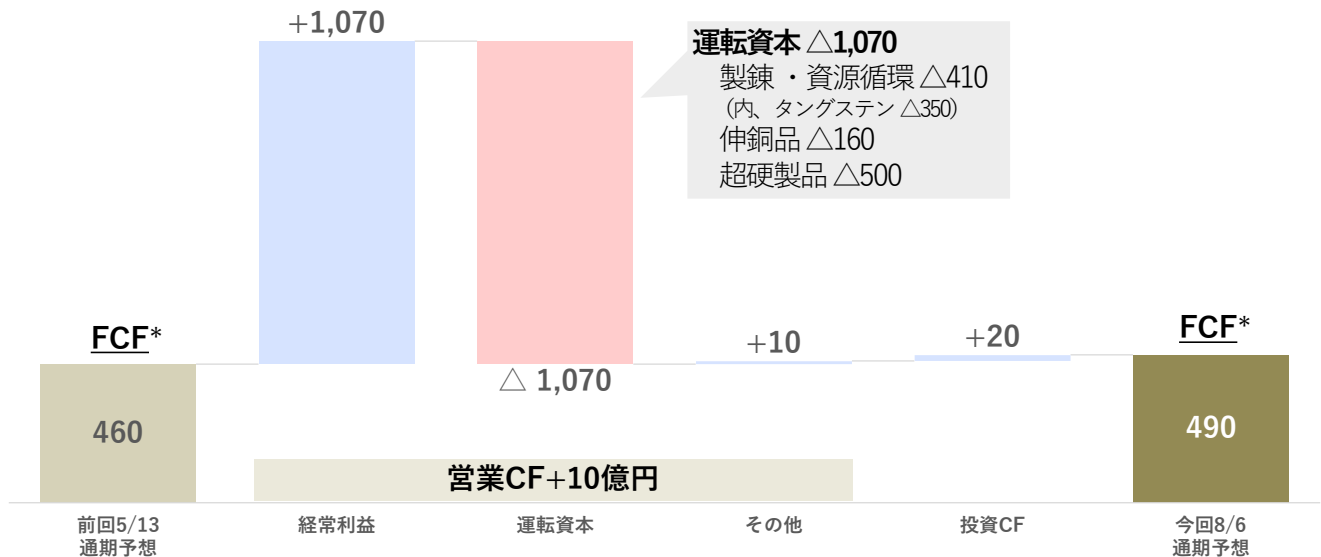
このように、通期上方修正の中心はマテリアル領域ですが、プロダクト領域においても改善を見込んでいます。一方で、市況感応度の高い利益と、自らの施策によって創出する利益を区分して管理し、後者を着実に拡大することが、今後の重要な経営課題と認識しています。

続いて、13ページをご覧ください。

2027年3月期通期予想 キャッシュフロー

利益上振れによるキャッシュ・インは、金属価格上昇に伴う運転資本の増加により概ね相殺され、FCF*の増加は限定的

(単位：億円)



*FCF=フリー・キャッシュ・フロー

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

13

13ページは、今回の業績予想修正に伴うキャッシュ・フローへの影響です。
 ここは、今回の決算を評価する上で、CFOとして特に重要と考えているポイントです。
 数値をご覧くださいますとおり、経常利益は前回予想から1,070億円増加する一方、銅とタングステンを中心とする金属価格の上昇により、運転資本も1,070億円増加する見通しです。
 資本効率の観点からは、この運転資本負担を所与のものとして受け入れるのではなく、継続的な改善余地があると考えています。
 成長投資、財務規律、株主還元のバランスを適切に判断するためにも、PL上の利益だけでなく、フリー・キャッシュ・フローの創出状況を重視し、運転資本の最適化と利益の着実なキャッシュ化に取り組んでまいります。

私からのご説明は以上となります。

参考情報

セグメント概況 製錬・資源循環

第1四半期実績

タングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果、円安による在庫評価影響により増益

項目	26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績	増減
売上高 億円	3,086	4,485	+1,399
営業利益 (在庫評価影響除く) 億円	△62 (△18)	205 (205)	+268 (+ 223)
経常利益 (在庫評価影響除く) 億円	△74 (△24)	222 (221)	+296 (+ 246)
26年3月期1Q経常利益			△74
為替差			+ 50
価格差 (販売価格)			+ 396
価格差 (コスト他)			△259
数量差			△16
その他 (営業内)			+ 96
受取配当金			+ 0
持分法損益			+ 9
その他 (営業外)			+ 18
27年3月期1Q経常利益			222

通期予想

金属価格・為替の前提条件見直しによるタングステン価格高騰前の低価格在庫払出効果、在庫評価影響により増益

前回5/13 通期予想	今回8/6 通期予想	増減
14,288	18,172	+3,883
227 (260)	1,102 (1,085)	+875 (+ 825)
213 (282)	1,084 (1,066)	+870 (+ 784)
前回5/13通期予想経常利益		213
為替差		+90
価格差 (販売価格)		+1,643
価格差 (コスト他)		△848
数量差		△10
その他 (営業内)		+1
受取配当金		+0
持分法損益		△4
その他 (営業外)		△0
今回8/6通期予想経常利益		1,084

セグメント概況 伸銅品

第1四半期実績

銅価格上昇に伴う在庫評価影響により増益

通期予想

銅価格の前提条件見直しによる在庫評価影響により増益の見込み

項目	26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績	増減
売上高 億円	768	1,147	+378
営業利益 (在庫評価影響除く) 億円	△4 (1)	59 (26)	+64 (+25)
経常利益 (在庫評価影響除く) 億円	△6 (△0)	58 (26)	+65 (+26)
26年3月期1Q経常利益			△6
為替差			+2
価格差（販売価格）			+6
価格差（コスト他）			+42
数量差			+5
その他（営業内）			+7
受取配当金			+0
持分法損益			－
その他（営業外）			+1
27年3月期1Q経常利益			58

前回5/13 通期予想	今回8/6 通期予想	増減
3,879	4,554	+675
28 (77)	107 (89)	+79 (+12)
7 (56)	90 (73)	+83 (+16)
前回5/13通期予想経常利益		7
為替差		+0
価格差（販売価格）		+4
価格差（コスト他）		+68
数量差		△1
その他（営業内）		+6
受取配当金		+0
持分法損益		－
その他（営業外）		+4
今回8/6通期予想経常利益		90

セグメント概況 超硬製品

第1四半期実績

堅調な事業環境を背景とする販売数量の増加により増益

通期予想

第1四半期の堅調な事業環境を取り込み、販売数量の増加により増益の見込み

項目	26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績	増減
売上高 億円	342	454	+111
営業利益 億円	32	86	+54
経常利益 億円	31	85	+54

26年3月期1Q経常利益	31
為替差	+15
価格差（販売価格）	+27
価格差（コスト他）	△19
数量差	+29
その他（営業内）	+1
受取配当金	△0
持分法損益	－
その他（営業外）	+0
27年3月期1Q経常利益	85

前回5/13 通期予想	今回8/6 通期予想	増減
1,578	1,662	+83
134	189	+55
129	185	+56

前回5/13通期予想経常利益	129
為替差	+11
価格差（販売価格）	+10
価格差（コスト他）	△8
数量差	+25
その他（営業内）	+15
受取配当金	+0
持分法損益	－
その他（営業外）	+1
今回8/6通期予想経常利益	185

セグメント概況 高機能製品

第1四半期実績

シール製品等の販売数量増加により増益

通期予想

AI・半導体向け製品の販売数量増加により増益の見込み

項目	26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績	増減
売上高 億円	548	720	+172
営業利益 億円	5	32	+26
経常利益 億円	4	34	+30

26年3月期1Q経常利益	4
為替差	+1
価格差（販売価格）	+3
価格差（コスト他）	△2
数量差	+16
その他（営業内）	+7
受取配当金	△0
持分法損益	+3
その他（営業外）	+0
27年3月期1Q経常利益	34

前回5/13 通期予想	今回8/6 通期予想	増減
2,588	2,847	+258
73	93	+19
53	80	+27

前回5/13通期予想経常利益	53
為替差	+4
価格差（販売価格）	+7
価格差（コスト他）	△4
数量差	+6
その他（営業内）	+5
受取配当金	+0
持分法損益	+4
その他（営業外）	+2
今回8/6通期予想経常利益	80

UBE三菱セメント社概況

UBE三菱セメント社連結損益計算書

(単位：億円)

項目		26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績
売上高	国内事業	857	927
	海外事業	450	454
	計	1,307	1,382
営業利益	国内事業	21	55
	海外事業	88	58
	計	109	114
経常利益		120	121
親会社株主に帰属 する純利益		64	69

当社持分法投資損益

持分法投資損益	29	32
---------	----	----

UBE三菱セメント社諸元

項目		26年3月期 1Q実績	27年3月期 1Q実績
セメント (国内総需要)	万 t	764	721
セメント (国内)販売数量	万 t	187	173
セメント (米国)販売数量	万 st	42	35
生コン (米国)販売数量	万 cy	164	142
一般炭価格 (参考指標)	\$/ t	100	136
ドル為替	円/\$	145	159

※上記一般炭価格は、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 26年6月末 連結貸借対照表

(単位：億円)

総資産	8,222	有利子負債	2,334	自己資本	3,113
自己資本比率	37.9%	ネットD/Eレシオ	0.51		

2027年3月期第1四半期

- ・国内事業：前年に引き続き建設現場の人手不足や工期の長期化等による国内需要減少の影響を受け、セメントの販売数量は前年同期を下回ったものの、前年度に実施した値上げの浸透により販売価格は前年同期を上回った。また、環境エネルギー事業における、前年度に実施した発電設備の定修及び設備トラブルの反動等による販売数量の増加とコストの減少が寄与し、国内事業全体では前年同期に比べて増収増益となった
- ・海外事業：売上高は、米国の金利高止まりを背景とした民間需要の低迷継続等により販売数量は減少したものの、円安の影響により前年同期に比べて増収となった。営業利益は、燃料費や輸送コスト等の増加もあり、前年同期に比べて減益となった

四半期業績の推移 セグメント別

(単位：億円)		26年3月期							27年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q
マテリアル領域	売上高	3,320	2,995	6,315	3,557	4,396	7,954	14,270	4,721
	営業利益	△52	110	57	116	287	404	461	244
	経常利益	△66	107	41	125	281	407	448	260
製錬・資源循環	売上高	3,086	2,795	5,881	3,299	4,108	7,408	13,290	4,485
	営業利益	△62	91	29	59	211	270	299	205
	経常利益	△74	93	19	68	208	277	296	222
伸銅品	売上高	768	787	1,555	963	1,061	2,025	3,581	1,147
	営業利益	△4	11	7	57	87	145	152	59
	経常利益	△6	8	1	56	84	141	142	58
プロダクト領域	売上高	891	894	1,785	946	1,085	2,032	3,818	1,175
	営業利益	37	33	71	55	71	127	198	118
	経常利益	35	36	72	62	72	134	206	120
超硬製品	売上高	342	348	691	369	412	781	1,472	454
	営業利益	32	23	55	38	48	87	142	86
	経常利益	31	27	58	41	51	92	151	85
高機能製品	売上高	548	545	1,094	577	673	1,250	2,345	720
	営業利益	5	10	15	17	22	40	55	32
	経常利益	4	9	13	20	20	41	55	34
資源	売上高	0	0	0	0	0	0	0	0
	営業利益	△7	△8	△15	△7	△7	△14	△30	△7
	経常利益	19	13	33	225	27	253	286	140
再生可能エネルギー	売上高	13	8	22	20	19	39	62	21
	営業利益	3	△2	1	5	3	8	10	8
	経常利益	1	△9	△8	3	12	16	8	10
その他*	売上高	88	86	175	21	93	115	290	52
	営業利益	△7	2	△5	△5	△24	△29	△35	△34
	経常利益	8	19	28	27	△30	△2	25	△13
合計	売上高	4,314	3,985	8,299	4,545	5,595	10,141	18,440	5,970
	営業利益	△26	135	109	164	331	495	605	329
	経常利益	△1	168	167	444	363	808	975	519

*その他事業、連結調整額含む

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

セグメント別内訳

(単位：億円)	前回5/13 通期予想(a)			今回8/6 通期予想(b)			増減 (b-a)		
	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益	売上高	営業利益	経常利益
マテリアル領域	15,498	250	215	19,426	1,185	1,150	+3,927	+935	+934
製錬・資源循環	14,288	227	213	18,172	1,102	1,084	+3,883	+875	+870
伸銅品	3,879	28	7	4,554	107	90	+675	+79	+83
プロダクト領域	4,167	207	182	4,509	282	266	+342	+75	+83
超硬製品	1,578	134	129	1,662	189	185	+83	+55	+56
高機能製品	2,588	73	53	2,847	93	80	+258	+19	+27
資源	－	△34	337	－	△34	458	－	+0	+120
再生可能エネルギー	78	15	14	79	16	15	+0	+0	+1
その他*	153	△79	△20	△16	△150	△90	△170	△71	△70
合計	19,900	360	730	24,000	1,300	1,800	+4,100	+940	+1,070

* その他事業、連結調整額含む

諸元 1/2

主要製品の生産・販売動向

項目			26年3月期							27年3月期	
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期予想
電気銅	生産量	千 t	81	101	181	86	87	174	355	80	308
	販売量	千 t	77	89	166	83	85	167	333	71	278
金	生産量	t	4	4	8	4	4	8	16	3	13
	販売量	t	4	4	8	4	4	8	16	3	12
銀	生産量	t	49	53	102	58	57	115	217	50	196
	販売量	t	47	55	102	55	60	115	217	48	196
伸銅品	販売量	千 t	31	31	62	34	32	66	127	31	130

金属価格・為替の推移

項目		26年3月期							27年3月期	
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期予想
ドル為替レート	円/\$	145	147	146	154	157	156	151	159	158
ユーロ為替レート	円/€	164	172	168	179	184	182	175	185	181
銅価格	¢/lb	432	444	438	504	583	543	491	604	579
金価格	\$/oz	3,280	3,454	3,367	4,145	4,877	4,511	3,939	4,516	4,129
パラジウム価格	\$/oz	990	1,171	1,081	1,469	1,715	1,592	1,336	1,414	1,178
APT価格(タングステン)	\$/MTU	410	520	465	728	1,758	1,243	854	3,069	3,017

諸元 2/2

鉱山配当額の推移

項目			26年3月期							27年3月期	
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期予想
Los Pelambres	配当額	億円	－	－	－	181	2	183	183	95	302
Escondida	配当額	億円	22	－	22	19	4	23	46	28	60
鉱山配当計	配当額	億円	22	－	22	200	6	207	229	123	363

持分法投資損益の推移

(単位：億円)

項目	当社持分	26年3月期							27年3月期	
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期予想
Mantoverde S.A.	30%	3	3	7	21	18	39	47	8	111
その他	-	38	45	83	49	30	80	164	59	188
合計		42	49	91	71	49	120	212	68	300

原材料の在庫評価影響

(単位：億円)		26年3月期							27年3月期	
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	通期予想
製錬・資源循環	営業利益	△62	91	29	59	211	270	299	205	1,102
	在庫評価影響	△44	△10	△54	+10	+1	+12	△42	△0	+16
	在庫評価影響を除く営業利益	△18	102	84	48	209	257	341	205	1,085
	経常利益	△74	93	19	68	208	277	296	222	1,084
	在庫評価影響	△49	△8	△58	+15	+4	+20	△38	+0	+17
	在庫評価影響を除く経常利益	△24	101	77	52	203	256	334	221	1,066
伸銅品	営業利益	△4	11	7	57	87	145	152	59	107
	在庫評価影響	△6	+8	+2	+60	+27	+88	+90	+32	+17
	在庫評価影響を除く営業利益	1	3	5	△3	59	56	62	26	89
	経常利益	△6	8	1	56	84	141	142	58	90
	在庫評価影響	△6	+8	+2	+60	+27	+88	+90	+32	+17
	在庫評価影響を除く経常利益	△0	+0	△0	△3	56	53	52	26	73
全社合計	営業利益	△26	135	109	164	331	495	605	329	1,300
	在庫評価影響	△50	△2	△52	+71	+29	+100	+47	+32	+34
	在庫評価影響を除く営業利益	24	138	162	93	301	394	557	297	1,265
	経常利益	△1	168	167	444	363	808	975	519	1,800
	在庫評価影響	△55	△0	△56	+75	+32	+108	+52	+33	+35
	在庫評価影響を除く経常利益	54	168	223	368	331	700	923	485	1,764

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

お問合せ先

**三菱マテリアル株式会社
IR室**

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

ml-mmccir@mmc.co.jp

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>

＜お知らせ＞

最新の適時開示など、当社IRに関する情報のメール配信サービスをご希望の方は、
以下のURLからご登録ください

<https://ir.mmc.co.jp/ja/ir/irmail.html>

＜免責事項＞

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。
実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。
本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。